地方創生

南幌町創生総合戦略

南幌町役場まちづくり課企画係

1　はじめに

南幌（なんぽろ）町は、北海道の中央部よりやや西南端の石狩平野に位置し、夕張川、千歳川に囲まれ、東北は岩見沢市、東南は旧夕張川を隔てて長沼町、西南は千歳川を挟んで北広島市、江別市に接しています。東端は東経141度42分、西端は東経141度34分、北端は北緯43度07分、南端は北緯42度59分に位置し、東西に11.765㎞、南北に13.85㎞、面積は81.36㎢を有しています。

東北部より、やや緩傾斜しており、高丘地は全くない全町平坦地区で標高は10mです。

旧夕張川及び幌向（ほろむい）運河沿に発達した沖積土と幌向原野を形成する泥炭地からなり、泥炭地帯においては各種土地改良事業が進められました。

南幌町位置図

近年は、住宅地においては、子育て施策の充実などにより美園地区を中心としてみどり野団地の販売が大きく進んでいるほか、令和８年10月の分譲開始に向けて「南幌流通団地」の整備を進めており、これらの動きとともに商業用地の利用も伸びています。

農地は、大規模で専業的な農業者や農地所有適格法人を主体とした生産性の高い農業が展開されており、米や小麦、大豆、野菜類などの食料の安定供給のほか環境保全の面で重要な役割を担っています。

2　人口の推移

本町の総人口は、札幌市のベッドタウンとして宅地の分譲が進んだことで平成２年から人口が増加し、平成10年には１万人を超えピークを迎えました。

その後は宅地の販売が停滞し、令和４年まで人口減少が続いていましたが、子育て世代の移住を促すための環境整備や札幌市近郊のまちとして知名度向上を図る施策の効果が表れ、令和４年５月からは前月対比で

南幌町空撮

人口増加に転じ、同年７月からは前年対比でも人口増加に転じるなど、現在まで人口の増加傾向が継続しており、令和８年９月１日時点（住民基本台帳）では8,125人となっています。

総務省が令和７年８月６日に公表した、住民基本台帳に基づく１月１日時点の人口動態調査において、日本人人口の増加率が全国で唯一、３年連続で上位５位以内となりました。

このような現状を踏まえ、今後も子育て支援の充実や若者世代の移住・定住促進、地域産業の活性化などに寄与する様々な施策を展開していき、人口の将来展望を令和32年で7,500人以上とする「（第３期）南幌町創生総合戦略」を令和７年３月に策定しました。

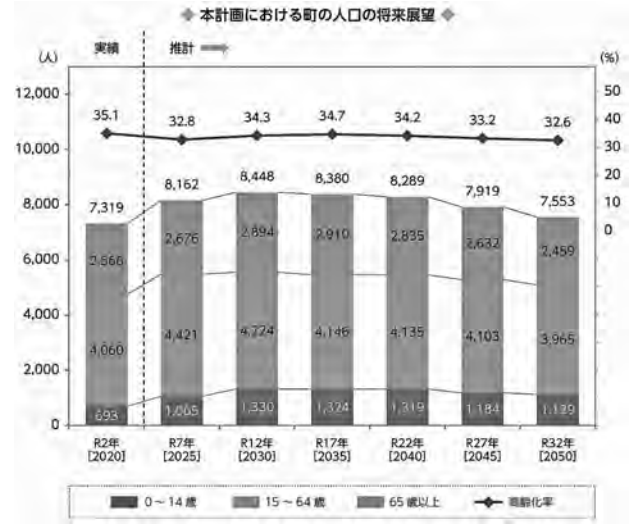

図１　人口の将来展望（南幌町創生総合戦略より）

３　南幌町創生総合戦略の概要

本町はこれまで「第２期南幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地方創生拠点整備交付金やデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、子ども室内遊戯施設の整備や当該整備と連動したエリアマネジメントの推進、温泉施設の整備、学生の地域定着推進などを行ってきました。また、地域特性を活かした持続可能なまちづくりを推進したことにより、人口増加や子育て支援策の効果が表れ、特に子育て世代の転入超過が顕著となったものの、雇用創出や産業活性化、デジタル活用などの課題も浮き彫りになりました。

こうした課題に向き合いながら、地方創生の取組をさらに進めるため、第３期となる「南幌町創生総合戦略」では、これまでの基本目標に加え、デジタル技術を活用した取組をさらに推進するため、内容を見直しました。

４　基本目標と具体的な施策

【基本目標１】　若い世代の結婚・出産・子育てを支援する。

令和２年以降、本町では社会増となり、特に子育て世代の転入が多い状況です。この層をターゲットにした人口増加施策を展開します。

一方、合計特殊出生率は1.22と全国平均より低く、出生数は35人前後で推移しているため、子育て支援の充実と住環境整備による少子化の抑止と出生数の向上を目指します。

＜基本施策＞

(1)　子どもを安心して産み育てられる支援体制の整備
(2)　子育て世代が定住したくなる住環境の整備
(3)　子どもの遊び場の充実
(4)　男女の出会いの場づくり

【基本目標２】　南幌への新しい人の流れをつくる。

町外からの交流を増加させるため、町の魅力を広く発信するとともに、農業振興や観光振興にもつなげていきます。

また、町のホームページなどにより、町の魅力やふるさと納税返礼品などを広く発信し、農産物をはじめとする地域産業の活性化につなげます。

(1)　観光の振興・ＰＲ
(2)　効果的な情報発信
(3)　ふるさと納税制度の普及促進
(4)　地産地消と消費者との交流
(5)　広域連携の推進
(6)　企業版ふるさと納税の活用

【基本目標３】　安心して働ける雇用環境をつくる。

本町の就業人口は第３次産業が約60％を占め、第１次産業と第２次産業はそれぞれ20％未満です。しかし、土地の66.8％が農用地であるため、農業を活かしたまちづくりを推進します。

さらに、事業所数が増加していることから、商工会との連携や企業誘致を進め、町民の就労機会を確保し、まちの潤いを与えられるまちづくりを進めます。

⑴　企業誘致等の推進
⑵　雇用の創出と支援
⑶　商店街の魅力づくりの支援
⑷　産業の担い手の確保・人材育成の支援
⑸　農業経営基盤の強化

【基本目標４】　時代に合った魅力的な地域をつくる。

バスなどの移動手段の確保や道路網の整備を進め、誰もが快適に生活できる環境を整備します。また、町民と行政の協働によるまちづくりや、デジタル技術の活用による行政サービスの向上と業務効率化を図ります。

⑴　交通ネットワークの充実
⑵　居住環境の充実
⑶　誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり
⑷　協働によるまちづくり
⑸　自治体ＤＸの推進

5　取組事例

【事例１　子育て支援策の充実と効果的なＰＲ活動による移住・定住人口の拡大促進】

本町は平成10年の１万人超えをピークに人口減少が続いていただけでなく、高齢化に関しては、他自治体に類を見ない本町の歪（いびつ）な人口構造が背景となり、平成27年から令和22年までの高齢化変化率を予測した北海道高齢化スピード予測（北海道開発協会こうほうマルシェノルドより）において、全道１位となる数値が示されました。

将来的に持続可能な自治体運営とまちづくりを進めるためには、人口減少だけでなく人口構造の是正に関する取組の必要性に迫られていたため、子育て世代への支援策の充実として、子育て世代への住宅建築費助成や子育て支援米の支給（中学生までの子ども一人当たり10kg）、学校給食費の半額助成、高校生までの医療費全額助成などを実施しています。

また、あわせて札幌圏域の子育て世代をターゲットとしたＰＲ活動として、ラジオや雑誌などによる広告宣伝活動や子育てイベント移住相談会などへの出展、移住体験住宅の建築などを実施し、子育て世代の転入者増加につながりました。

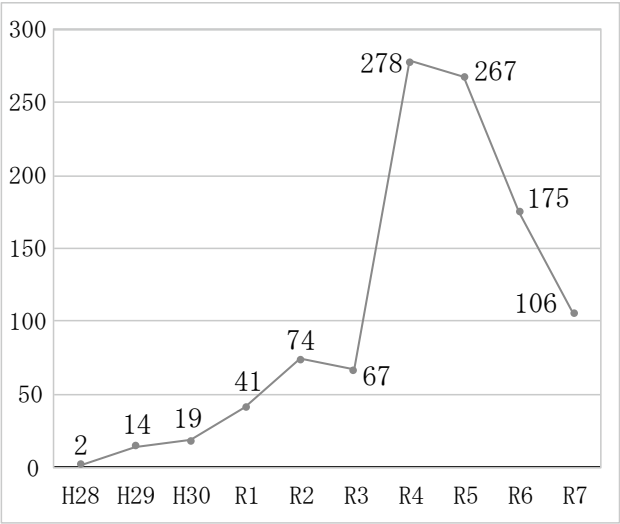

図２　子育て世代住宅建築費助成事業を活用した転入者数
※　Ｒ７は９月１日時点の人数

住宅団地空撮

【事例２　新たな人の流れを生み出す遊びと体験の子ども室内遊戯施設整備事業】

これまで実施してきた子育て支援施策などにより、子育て世代を中心とした転入者が増加し、人口減少の推移は鈍化している傾向にあります。

子育て世代にとってより魅力的なまちを目指し、「暮らしやすいまち」「子育てしやすいまち」「暮らしていて楽しいまち」の環境を整備するために、子育て世代にとって非常に需要が高い、季節や天候に左右されずにいつでも遊ぶことができる子ども室内遊戯施設「はれっぱ」を令和５年５月にオープンしました。

計画ではオープン１年目（令和５年度）に遊戯エリア利用者数93,000人を見込んでいましたが、133,210人（施設全体では192,087人）と計画を大きく上回る利用者となりました。令和６年度についても遊戯エリアで122,912人、施設全体で183,335人の利用者がおり、子育てしやすいまちづくりに寄与しています。

子ども室内遊戯施設「はれっぱ」

「はれっぱ」内遊戯スペース

【事例３　南幌温泉周辺整備事業】

本町における最大の資源である豊かな自然と観光拠点の核となる南幌温泉を活用して、魅力ある観光拠点エリアづくりを進めるため、温泉を利用できるという優位性を活かし周辺施設との親和性の高い高規格キャンプ場及びＲＶパークを南幌温泉の隣接敷地に整備します。それにより親水公園での釣りやパークゴルフ・乗馬と合わせて、本町ならではの自然を体験できる一体的な観光拠点エリアとしてより多くの観光客を誘引し、町内の交流人口を増加させ、地域経済の活性化につなげます。

現在、令和８年度からのオープンに向け工事を行っています。

高規格キャンプ場　イメージ図

6　おわりに

本町ではこれまでの各種施策の成果により人口増加が続いているものの、地方自治体を取り巻く環境の変化の中で、先送りできない課題に直面しています。それらの課題を一つずつ乗り越えるため、町民や町内事業者、町議会議員、町職員との対話を重ねながら、総合計画が示すまちの基本理念である「誰もが笑顔で活躍できるまちづくり」の実現に向けて取り組んでいきます。